



季節を知ったら
暮らしが楽しくなった

〜第三〇四号〜

立秋

八月八日

四萬六千日

この日に参詣すれば、四万六千日お参りしたことに同じ功德がいただけるといふ観音菩薩の縁日「四萬六千日」。「十日参り」ともいわれ、「ほおずき市」の立つ東京の浅草寺が知られます。伊勢地方では、浅草寺より、ひと月遅れの八月十日に行われます。

伊勢市の隣、玉城町にある田宮寺でも、九日の夕方頃から翌日の十日にかけて、ご本尊が特別に公開され、多くのお参りがあります。

田宮寺は、伊勢神宮内宮の禰宜を代々務めてきた荒木田氏が信仰した由緒をもつ寺。神主が仏を拜むとは意外ですが、古くは神仏習合（日本古来の神への信仰と外来の仏教を融合調和すること）の考え方がありました。

ご本尊は、国の重要文化財に指定された木造十一面観音立像で、四萬六千日（会式）と二月の初観音の年二度、御開帳されます。御堂奥にある収蔵庫の重い扉の向こうに、二体の仏像が並び立つ様は、とても神々しく感じました。十一の顔をもつ形の十一面観音は七世紀後半以降に信仰されましたが、二体の十一面観音が並び立つのは初めて見ました。高さは一六五センチ前後で、左手に蓮花を挿す宝瓶を持つ形はほぼ同じですが、細部は少しずつ異なります。なぜ二体並ぶのかは、詳しくはわかっていません。

このご本尊は、明治時代に寺院や仏像などが壊される廃仏毀釈（仏教排斥運動）では地区の人々が守り抜きました。令和の今に伝わる荒木田神主ゆかりの仏像、今年の四萬六千日も、多くの人々が拜みに来られることでしょう。

文 千種清美



おかげの里便り

おかげ横丁

○ 立川談春 特別公演「伊勢の夏に江戸の風」

演じ手の技巧と、聴衆の想像力とで物語の世界が広がってゆく、高度な技芸を要する伝統芸能である落語の世界において「江戸の風」を吹かせる、と言えば落語立川流。立川談春による、江戸落語の粋に触れる珠玉の高座を。

と き／8月10日(土) 14:00～(受付13:00、開場13:45)

出演／立川談春

ところ／おかげ座 神話の館 特設舞台

定員／100名(入場無料)

お問合せ／おかげ座 神話の館

0596-23-8844 (10:00～17:00)

○ 夏祭り～伊勢と江戸の盆踊り～

五穀豊穡、家内安全を祈願する鞆鼓踊(かんこおどり)、古市の遊郭にて人気を博し、全国から来た参宮者によって日本各地に広まっていった河崎音頭と、東京の盆太鼓スタイルであった斜め台による打法を初めて創作和太鼓に取り入れ「助六流」という独自の演奏形態を築きあげた、大江戸助六太鼓による東京音頭の競演。

と き／8月10日(土) 18:00～

出演／有爾中鞆鼓踊り保存会(明和)

朝熊町河崎音頭保存会(伊勢)

<特別出演>大江戸助六太鼓(東京)

ところ／おかげ横丁太鼓櫓

五十鈴塾

○ 海のお祭り

1084キロにおよぶ三重の海岸線は、変化に富んでいます。そこでは、カツオ漁の一本釣りや伊勢海老の刺し網漁、海女漁などさまざまな漁が行われています。海岸線に点在する漁村では、大漁祈願、安全祈願のお祭りが古くから行われてきました。志摩の「潮かけまつり」、鳥羽管島の「しろご祭り」をはじめ、伊勢神宮外宮の末社・赤崎神社の「赤崎祭」、かつて行われていた神宮の贄海神事を彷彿とさせる二見浦の「神前普請」などです。漁業は海に生息する魚や貝を採ってくるという、なにをどうしても人智では解決できず、自然の恵みのままに任せるしかない仕事です。海辺の祭りを通して見えてくるものとは何か、原始以来海と共に生きてきた海の伊勢人のお話です。

と き／8月23日(金) 13:30～15:00

講師／千種 清美(文筆家・皇學館大学非常勤講師)

参加料／一般1,300円 会員800円

場所／五十鈴塾右王舎

※お問い合わせ・お申込み 0596-20-8251

五十鈴茶屋

○ 節気菓子

しょうかいどう
秋海棠

白餡を道明寺生地で包み、氷餅をまぶすことで、愛らしい秋海棠の花を表現しました。

けいりゅう
溪流

虎豆納豆入りの白餡を、薄く流した葛寒天で巻きました。青楓が彩りを添えて、涼しさを一段と際立たせます。

や
くず焼き

こし餡入りの生地を蒸し、上用粉を付けて焼きました。ひと味違う葛の風味を、どうぞお楽しみください。